

基本施策 G 1 次代を生きぬく子どもを育みます

主管課：学校教育課

個別施策

- G1-1 確かな学力の向上を図ります
- G1-2 健やかな心と体を育成します
- G1-3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実を図ります
- G1-4 子どもが安全・安心に学べる教育環境を整備します

ア 施策の目的

子どもが、将来の夢や希望を自らの言葉で語り、実現に向けて努力している。

イ 基本施策の評価

C c 目標を一部達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	
夢や目標を持っている小中学生の割合	78.5% (27年度)	↑	目標値	79.5	80.5	81.5	82.5	83.5
			実績値	76.8	77.7	77.2		
			達成率	96.6%	96.5%	94.7%		
自分によいところがあると思う小中学生の割合	74.8% (27年度)	↑	目標値	75.8	76.8	77.8	78.8	79.8
			実績値	74.1	75.3	82.3		
			達成率	97.8%	98.0%	105.8%		
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している小中学生の割合※	71.4% (27年度)	↑	目標値	72.4	73.4	74.4	75.4	76.4
			実績値	70.3	72.0			
			達成率	97.1%	98.1%			

※「失敗を恐れなくて挑戦する」という指標は、全国学力・学習状況調査の結果を基にしていたが、平成30年度は項目がなくなり結果は出ていない。しかし令和元年度調査では再度調査項目が戻っているため、指標はそのままとする。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

なし

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- 標識等を英語や韓国語等外国語表記にすることで、日常生活で外国語に触れる機会

を増やし、子どもたちに国際化というものを認識するきっかけとしてもらってはどうか。

- 英語教育も大切だと思うが、多言語多文化共生ということであれば、英語以外の言語について勉強しても良いのではないか。英語嫌いが等しく国際理解教育が上手いかないということにならないように、長崎らしい工夫をしてみてもどうか。
- ICカードで出退勤の時刻を把握しただけでは、業務量が変わらなければ自宅に持ち帰る仕事が増えるだけになってしまう。根本的な解決のためには、自宅に持ち帰る仕事を把握するような工夫と職員の意識改革をしないといけない。
- 教職員の働き方改革は勿論大切ではあるが、その一方で地域との関係が希薄になってしまう懸念があるため、地域との関わりを保ちつつ改革を進めていただきたい。
- 子供の通学路の安全に関して、学校教育課も現場の状況を把握しておいていただきたい。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 成果指標について、具体的にイメージしにくい指標となっているため、今後は具体的な教育の取組みとつながるような指標を設定してはどうか。(前期計画の際の不登校児童の発生率などイメージがしやすい指標)